

松原市歯科医師会



高橋眼科
院長 高橋健一郎

口腔がん検診について

口腔がんはお口の中に発生するがんで、歯以外のどこにでも発生する可能性があります。舌がん、歯肉(歯ぐき)がん、口腔底(舌の下)がん、頬粘膜がん、口蓋がん、口唇がんがあり、そのうち日本人に一番多いのが舌がん(約60～70%)です。ときどき「口の中にもがんができるの?」と驚かれる人がいらっしゃいます。それだけ口腔がんは認知度が低いのが現状ですが、頭や喉にできるがんの中では、喉頭がんに次いで多いのが口腔がんです。がん全体からすれば約1～3%と低い数値ではありますが、残念ながら、この数字は年々増え続けています。

「ただの口内炎だと思っていた」、「痛みがないので放っておいた」などの理由から発見が遅れた結果、手遅れになるケースが非常に多いのが現状です。しかし、口腔がんは早期発見・治療ができれば命を落とすケースは少ないのです。口腔がん検診では、患者さんのお口の中を隅々までチェックします。お口の中をすべてチェックすることにより、本人が自覚できない病変などを見つけることが可能です。また、早期発見・治療できれば切除範囲はごくわずかのため、発音や発声に障害は残らない場合が多いのです。

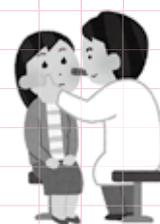
今年度から「口腔がん検診」が実施されます。わずかな変化を見逃さないことで、口腔がんの早期発見と治療を実現します。ぜひ検診をお受けください。

緑内障について

目の玉はカメラに例えられることがあります。奥の方にはフィルムに当たる網膜というものがあります。そこに像が映され、その情報が脳に伝わって解析されるのですが、フィルムと脳の間をつなぐ視神経というコードがあります。緑内障という病気はそのコードが傷ついてしまうものです。

残念ながら視神経は一度傷つくと元にはもとどりません。そのため昔から恐れられ、日本でも失明原因の常に上位にあります。自覚症状に乏しく、たまたま健診で見つかることも多いものです。そのため時々新聞などで啓蒙の広告が載っているのにお気づきの人もいらっしゃるかもしれません。原因はさまざまですが、年齢とともに確率は高くなります。世界中で高齢化社会が訪れており、これからますます早期発見、早期治療が大切になってきます。

治療法はあくまで『治す』というものではなく、『病気の進行を遅らす』目的です。過去に診断された、あるいは治療を始めたけれど中断されている人も多いかと思います。是非お時間のある時にもう一度、眼科を受診してください。



広告募集中

広報まつばらには、広告を掲載していません。掲載のお問い合わせは、

広告代理店 合同会社M総合企画 (☎072-275-5449)

広告代理店 株式会社ホープ (☎092-716-1404)

広告代理店 株式会社宣成社 (☎06-6222-6888)

広告代理店 株式会社プリーズ (☎06-6262-1101)

まで。